

第2章



計画の背景・板橋区の現状と課題

- 1 計画の背景
- 2 実施計画 2020 の進捗状況
- 3 板橋区の現状と課題

第2章 計画の背景・板橋区の現状と課題

実施計画 2025 を策定するにあたり、改めて社会情勢を振り返るとともに、実施計画 2020 の進捗状況を把握・点検したうえで、板橋区の現状と課題を整理します。

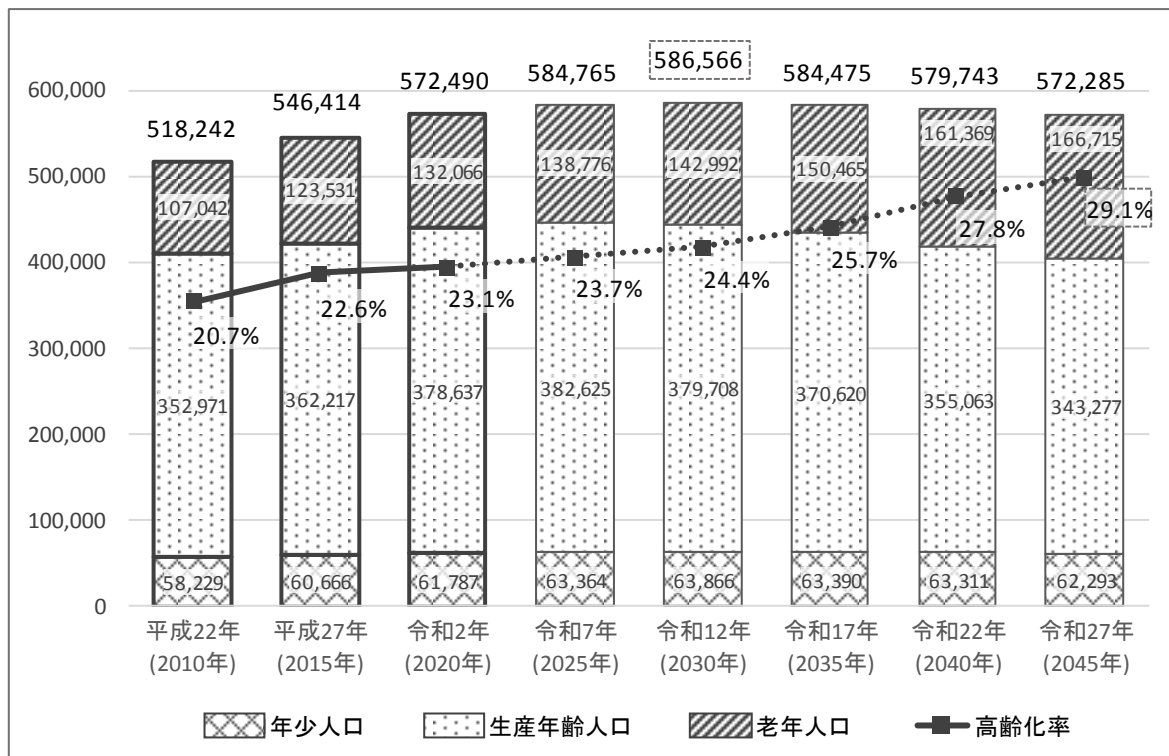
1 計画の背景

(1) 人口減少と超高齢化の進行

日本では、世界でも類を見ない形で、超高齢化が進行しており、加齢に伴う身体・認知機能の低下などにより、何らかの支援を必要とする人の割合が高まっています。その一方で、人口減少に伴い、手助けが必要な方を支える担い手が不足していくことが考えられます。

区においても高齢化は進み、令和 27（2045）年には高齢化率が 30%近くにまで達する見込みです。また、人口については令和 12（2030）年まで増加傾向が続きますが、その後緩やかに減少していく見込みとなります。

【図表 4】板橋区の人口と高齢化率の見通し



2010年～2020年は板橋区住民基本台帳に基づく実数値。2025年～2045年は板橋区人口ビジョンに基づく推計値。

(2) SDGs（持続可能な開発目標）の採択

SDGs（持続可能な開発目標）とは、平成27（2015）年の国連サミットで採択された令和12（2030）年を年限とする国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴールから構成され、すべての国の共通目標となっています。その推進には、国家レベルだけでなく自治体レベルでの取り組みも期待されています。

SDGsの達成のためには、「誰一人取り残さない」社会をつくっていくことが重要であるとされており、すべての人を対象としたユニバーサルデザインの考え方との親和性が高い理念であるといえます。

【図表5】持続可能な世界を実現するための17のゴール



(3) 国の動き

国では、平成20（2008）年3月には「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」が、平成25（2013）年6月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（以下「障害者差別解消法」）が制定され、あらゆる人の社会参加を促進する取り組みの推進が図られています。

また、平成30（2018）年には「ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の総合的かつ一体的な推進に関する法律」が制定され、国と地方自治体のユニバーサル社会実現に向けた責務が規定されています。

(4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大

令和2（2020）年に入り、新型コロナウイルス感染症の流行が世界規模に拡大したことで、甚大な人命の被害とともに社会経済へ深刻な影響を及ぼしています。

日本では、令和2（2020）年3月下旬以降に感染が急速に拡大してから、いまだ収束の兆しは見え、社会生活にも多大な影響を与えています。

区を取り巻く環境も大きく変化しており、ポストコロナ時代を見据えた「新しい日常^{※1}」の構築・定着が求められています。

※1 新型コロナウイルス感染症を乗り越えていくためにくらしや働く場での感染拡大を防止する習慣

2 実施計画 2020 の進捗状況

平成 29（2017）年度から取り組んできた実施計画 2020 に係る 22 の重点事業について、令和 2（2020）年度までの進捗状況を総括評価しました。

全体としてみると、7割以上の重点事業が「順調」となっています。残る3割は計画どおり「完了」しており、計画が順調に推進していることがわかります。

【図表 6】 実施計画2020の進捗状況

指 針	重点事業	進捗状況
指針 1 ひと 地域で支えあう「ひと」の「もてなしの心」を育みます	1-1 ユニバーサルデザインガイドライン等の検討・作成	順調
	1-2 MOTENASHI プロジェクトの推進	完了
	1-3 オリンピック・パラリンピック教育の推進	順調
	1-4 ユニバーサルデザイン研修の実施	順調
指針 2 まちの暮らし 「暮らし」を支える「まち」の力を引き出します	2-1 屋外案内標識デザインガイドラインの策定	完了
	2-2 福祉避難所の整備	順調
	2-3 自転車利用ルール推進	順調
	2-4 おでかけマップの管理・運営	順調
	2-5 コミュニケーション支援機器等の活用	順調
指針 3 まちの空間 安心・安全で魅力ある「まちの空間」づくりを進めます	3-1 東板橋体育館周辺スポーツ施設整備	順調
	3-2 小豆沢スポーツ施設整備	完了
	3-3 公園のユニバーサルデザイン化	順調
	3-4 中央図書館の改築	完了
	3-5 内方線付き点状ブロック整備支援	完了
	3-6 自転車駐車場の整備	順調
	3-7 駅エレベーターの設置誘導	順調
	3-8 ユニバーサルデザインチェックの実施	順調
	3-9 ユニバーサルデザインアドバイザーの設置・活用	順調
指針 4 しゅみ ひと・まちを支えユニバーサルデザインを効果的に推進するための「しゅみ」を整えます	4-1 会議・イベント等に参加できる環境整備の検討	順調
	4-2 ユニバーサルデザイン推進調整会議の設置・活用	順調
	4-3 板橋区ユニバーサルデザイン賞の検討・実施	順調
	4-4 アーバンデザインセンター高島平の運営	順調

【評価評語について】

「順調」：計画どおりに事業が実施された。

「完了」：計画事業として令和 2 年度までに終了した。

「繰り延べ等」：事業が実施されなかったり、見直しを行ったりした。

3 板橋区の現状と課題

計画の背景及び実施計画 2020 の進捗状況を踏まえ、改めて板橋区の現状と課題を整理します。

(1) 普及啓発や人材育成に関する現状と課題

- 実施計画 2020 の新規事業として、多様な人が抱える困りごとやその対応方法などを理解し、行動することができるよう「板橋区ユニバーサルデザインガイドライン」を策定しました。また、ガイドラインをもとに、気軽に楽しくユニバーサルデザインを学ぶことができるよう、間違い探し形式のパンフレット「まちのなかで気づくかな？」^{※2}を作成し、普及啓発や人材育成に活用してきました。

引き続き、ガイドラインの内容を充実させていくとともに、より効果的に活用するための新たな手法を検討し、実行していくことが重要です。

- 小学校の総合的な学習の時間などにおいて、ユニバーサルデザインについて学習したり、車いす体験を行ったりするなど、多様な人を理解する教育を行ってきました。

他方、区民におけるユニバーサルデザインの認知度は約 3 割に留まっています。

今後は、区民、地域活動団体^{※3}、事業者が、ユニバーサルデザインの考え方を正しく理解し、日常生活の中での実践につながるよう意識啓発を図り、多様な人を理解する学びの機会を充実させることが必要です。

- 区職員への意識啓発については、実施計画 2020 の新規事業として「ユニバーサルデザイン研修」を実施してきました。その結果、当初約 5 割だった区職員におけるユニバーサルデザインの認知度は、約 8 割まで向上しました。

引き続き、区職員への意識啓発を図るとともに、日常業務において多様な人の不便さに自ら気づき、解決に向けて取り組むことができるよう、行動変容の動機づけが必要です。

※2 16 頁のコラム「ユニバーサルデザイン啓発パンフレット「まちのなかで気づくかな？」」を参照

※3 町会・自治会、商店街、NPO、社会福祉法人等

(2) 情報提供や暮らしに関する現状と課題

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、案内サインや情報表示の多言語化などの環境整備に取り組んできました。引き続き、訪日外国人や板橋区の外国人人口の増加による、さらなる国際化の進展に向けた対応が必要です。

今後は、区の発信する情報が、外国人をはじめ、子どもや障がい者など、だれもが理解しやすいものとなるよう、わかりやすさに一層配慮した取り組みが必要です。また、情報を必要とする人が、必要な時に容易に受け取ることができるよう取り組みも必要です。

- だれもが気兼ねなく外出できるよう、「赤ちゃんの駅^{※4}」や「だれでもトイレ」などの設備が備え付けられている施設へアクセスしやすいようなシステムの改修・拡充を進めてきました。

今後は多様化するニーズを捉え、広域的な視点を踏まえつつ最新の技術などを活用して、だれもが社会参加しやすい環境整備を進める必要があります。

- 災害時に備えて、子ども連れや障がい者など、配慮が必要な方が安心して避難することができるよう、事業者や地域活動団体と連携して支援体制を整備してきました。

今後起こりうる首都直下地震や河川の氾濫などを見越して、引き続きハード・ソフト両面から整備を続けていくことが求められています。

- 障がいのある・なしや、性別、国籍にかかわらず、だれもが本来持っている力を発揮することができるよう、障害者差別解消法に関する講演会を実施したり、スマイルマーケットの運営を支援したりしてきました。

持続可能な社会が求められる中、「誰一人取り残さない」視点を踏まえながら、だれもが生きがいを感じ働きやすい環境を推進していく必要があります。

- 新型コロナウイルス感染症の感染対策のため、三密（密閉、密集、密接）の回避が要請されるようになりました。

「新しい日常」のもとで生じる多様な人の困りごとやその対応方法について検討し、広く周知することで、だれもが社会参加しやすい環境整備を進めていく必要があります。

また、コロナ禍を契機として、働き方や事業運営、行政手続き等のデジタル

※4 乳幼児を連れて外出した際の授乳やおむつ替えのために、気軽に施設を利用できるよう、保育園・児童館・民間商業施設などを赤ちゃんの駅として指定する、板橋区発祥の事業。

化・オンライン化による区民サービスの質の向上が求められています。

ポストコロナ時代に向けた変化を変革の好機と捉えて取り組むとともに、だれもが理解しやすく、参加しやすいものとなるよう配慮することが必要です。

コラム | だれもが使いやすいホームページ

【ホームページを自動翻訳した例】

With a universal design



Page number 1066128 Update date April 9, 2020

Print By the big character, print.

A universal design is individual's diversity is respected in spite of the age, the gender and the ability of the nationality and the individuals, and to arrange the environment that social participation is made by all situations.

【ホームページの背景色を変更した例】



【画像の読み上げに対応した代替テキスト入力例】



代替テキスト
写真：板橋区の
木けやき



代替テキスト
写真：板橋区の
花にりんそう

区のホームページは、外国人が理解しやすいよう、英語・中国語・韓国語への自動翻訳やふりがな機能を設けたり、色覚障がいのある方が見やすい背景色へ変更したりすることができるなどのシステムを導入しています。このシステムを活用し、利用者は、それぞれの特性に応じて、使いやすく見やすいページとすることができます。

また、「板橋区ウェブアクセシビリティガイドライン」を定め、これにそってホームページの運用をしています。

ウェブアクセシビリティとは、「高齢者や障がい者を含めて、だれもがホームページなどで提供される情報を支障なく利用できること」を意味します。

例えば、視覚障がいのある方は、音声読み上げ装置を用いてホームページを閲覧することがあります。しかし、画像ファイルのみですと、どのような画像なのか判断できません。そのため、画像の内容がわかる代替テキストを入力する必要があります。

区の職員がガイドラインに則した作成を重ねていくことで、だれもが使いやすいホームページにすることができます。

(3) 公共施設などに関する現状と課題

- 実施計画 2020 で定めた体育施設や図書館、公園などの整備事業は、すべて「順調」となっており、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた施設整備が進められています。

また、実施計画 2020 の新規事業として、区公共施設の改修時などにその建築物がユニバーサルデザインの考え方に適合しているかなどを確認する「ユニバーサルデザインチェック」を実施してきました。

引き続き、公共施設の価値を高める設計となるよう調整を進めるとともに、今後は竣工後の評価、改善につなげていくことが重要です。

コラム | 板橋こども動物園（東板橋公園内）



区民のみなさまに親しまれてきた「板橋こども動物園」が、令和2年12月8日にリニューアルオープンしました。

子ども連れの方が多く利用するため、「キッズルーム」や、ベビーカーごと入れる「親子トイレ」、「幼児トイレ・おむつ交換スペース」、「授乳室」などの設備を充実させています。

【 幼児トイレ・おむつ交換スペース 】



近年では、男性の保護者がこれらの設備を利用することも増えています。そのため、プライバシーに配慮しながらも、入退室の気配が感じられるデザインを工夫し、だれもが気兼ねなく安心して利用できる空間としています。

また、車いす利用者などが利用しやすい「だれでもトイレ」も併設することで、多様なトイレ利用が分散するよう配慮しています。

園内の案内サインも、だれもがイラストで理解できるものとするなど、絵本をイメージしたデザインとすることで、魅力的で親しみやすい施設となっています。

(4) 移動環境などに関する現状と課題

- 鉄道駅では、区内のすべての駅でバリアフリーの1ルートが確保されています。今後は、複数ルートの整備について必要な協議・調整を行っていくことが求められています。
- 駅ホームからの転落事故を防ぐため、区内のすべての駅に内方線付き点状ブロック^{※5}またはホームドアが設置されており、一定の対策がなされています。今後は、駅ホームの安全性を一層確保するため、ホームドアの設置を進めていくことが必要です。
- 歩車道分離道路の改修時などには、車いす使用者や視覚障がい者などに配慮した「板橋型 BF ブロック」の設置を進め、歩行空間の整備に取り組んできました。
引き続き、移動しやすい歩行空間を整備するとともに、今後は、多様な交通手段により、区内外の拠点間を、だれもが快適に移動できる環境を整えていく必要があります。
- 地域ごとに整備を進めるまちづくり事業においては、だれもがくらしやすく魅力ある生活環境となるよう、多様な人や場面をあらかじめ想定し、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた取り組みを進めていくことが重要です。

コラム | 板橋型 BF ブロック



平成 16 年 10 月に製品化した「板橋型 BF ブロック」は、段差を残して工夫を凝らすことにより、車いすやベビーカーなどのスムーズな通行を可能としながら、視覚障がい者（白杖利用者）が歩道と車道を認識しやすい形となっています。

区では、このブロックを標準仕様として、歩車道分離道路の改修時に整備促

進を図ることで、だれもが移動しやすい環境づくりに取り組んでいます。

※5 点状ブロックの内側に安全側を示す 1 本線が追加されたブロックのこと。

(5) 推進体制に関する現状と課題

- 実施計画 2020 の新規事業として、専門家の意見や助言を得ながら区の職員がユニバーサルデザインの考え方を踏まえて検討するための庁内体制として「ユニバーサルデザイン推進調整会議」を設置し、運営してきました。

ユニバーサルデザインの好循環（スパイラルアップ^{※6}）を進めていくためには、庁内における調整や連携を深めて、組織横断的に一丸となって取り組んでいくことが引き続き求められています。

- ユニバーサルデザイン推進協議会などを通じて、多様な立場の方からの意見を取り入れて区の事業を進めてきました。

他方、ユニバーサルデザインと親和性の高いSDGs（持続可能な開発目標）を達成するためには、個々の課題の解決策を探るプロセスで他の課題とつながっていることに気づき、その気づきを起点としてこれまで接点のなかった人たちが出会い、対話を通じて解決策を導くことが求められます。

さらなるユニバーサルデザインの推進にあたっては、まちづくり当事者である区、区民、事業者、地域活動団体が相互に連携して課題解決に取り組むことが重要です。

コラム | ユニバーサルデザイン啓発パンフレット「まちのなかで気づくかな？」



ユニバーサルデザインを子どもから大人まで気軽に楽しく学べるように、間違い探し形式のパンフレット「まちのなかで気づくかな？」を平成 30 年 3 月に作成しました。

イラストの中から困っている人を探して、どんな配慮や手助けができるのかを、ご家族や友達と一緒に考えることができるパンフレットとなっています。

資料編 95 ページに、モノクロ版を掲載していますのでご覧ください。

実物のパンフレットは、絵本のようにカラフルで親しみやすいデザインとなっています。

※6 計画・実行・評価・改善の好循環のこと。詳細は 39 頁を参照。